



2022-23 年度  
国際ロータリー会長  
ジニファー・ジョーンズ

# Weekly Report Niigata



2022～23 年度  
新潟ロータリークラブ会長

石川 治孝

新潟 RC 11月12日・13日 新潟 RC ホスト 地区大会(例会に振替) No.3436

## 国際ロータリー第 2560 地区 高橋 秀樹ガバナー 2022 年 11 月 12 日御挨拶

国際ロータリー第 2560 地区のロータリーファミリーのみなさん、本日は 2022-23 年度地区大会に御参加くださり、洵にありがとうございます。みなさんと共にこの大会を催すことができ、心から喜ばしく思います。

このかけがえのない機会に、県外からもたくさんの方々がいらしてくださり、この上なく嬉しく存じます。国際ロータリー会長代理の山田邦子様と御夫君昇司様、御来新を賜り光栄に存じます。これから二日間、御指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。第1地域ロータリーコーディネーター橋岡久太郎様、米山記念奨学会前副理事長水野功様におかれましては、御講演お引き受け下さり、心から感謝申し上げます。そして、同期ガバナーとパートナーのみなさまにおかれましては、この週末は8つの地区が地区大会を開催している中、この新潟にお越しくださり誠にありがとうございます。他にも他地区から多くの方々をお迎えすることができましたことは、当地区ガバナーとして大きな喜びとするところでございます。当地区ロータリアン一同、心から感謝し、歓迎申し上げます。

さて、この三年間、Covid19 のために、通常の催しがまなまりませんでした。3年ぶりに通常の形で地区大会を開催することができました。他の地区の地区大会を表敬訪問いたしますと、やはりどの地区でも3年ぶりでフルセットの開催を喜ぶ声が聞こえてきます。おそらく日本の全地区がそうでしょう。そしてきっと、世界のすべての地区で、ロータリアンが様々な活動の再開を喜んでいるのではないのでしょうか。まさに 2022 年というこの年、世界中のロータリアンが復活の喜びに湧き立っている中で、当地区も、その大きな喜びの輪の一角を成しています。本日お集まりのみなさまと共に、今日と明日の日を過ごすことができるのは、大変幸せなことであります。

本日を迎えるまでには、大小さまざまな想定外の困難がありました。もとより私がガバナーノミニーになったときは、まだまだ Covid19 感染状況改善の兆候が見えず、先行き不透明で、不安を抱えた船出でした。そして昨年 12 月には、地区幹事だった福地利明さんが急逝するという、大変ショッキングな出来事が起こりました。私が大きなご負担をかけてしまったからだろうかと思えてなりません。ただただ心から御冥福をお祈りする次第です。その後、ホームクラブのみなさんや、パストガバナーの方々をはじめ、多くの方々からお気遣いいただき、御尽力いただいて、見る見るうちに、山田隆一地区幹事を軸とする新体制が整いました。みなさんの優しさにひたすら感謝申し上げます。

さらに年度が始まって1ケ月経ったところで、8月3日からの豪雨により、本県は激甚災害に見舞われました。重症者1名、床上・床下浸水併せて 2,099 件、上下水道、幹線道路も大きな被害を受けました。被災地の復旧・復興にはまだまだ長い時間がかかります。ロータリアンの中でも被災した方は少なくありませんでした。しかし、その時私たちの地区のロータリアンの活躍には目を見張るものがあり、様々な形で被災地支援を行いました。皆様から地区に寄せられた支援金も、11月8日時点で 237 万 3 千円に達しています。地区大会のガバナー挨拶という場ではありますが、この場でみなさまに心からお礼申し上げます。

これまでにございました、こういった諸々のことを思い返しますと、恙無く今日という日を迎えたことには、万感の思いがございます。地区大会は、地区のロータリアンすべてのためのものであります。ガバナーは、地区のロータリアンのみ

なさま全員のために、地区大会をご用意する責務があります。私がこの責務を全うする上で、惜しみなく力を尽くしてくださったすべての方に感謝申し上げます。そして、本日、対面とオンラインで集ってくださったみなさまには、この二日間を存分に楽しんでいただきたく存じます。大いにロータリーを学び、大いに親睦を深めましょう。みなさま全員にとって、充実した、心に残る地区大会になることを祈念し、私の御挨拶とさせていただきます。

## **国際ロータリー第 2560 地区 高橋 秀樹ガバナー 2022 年 11 月 13 日御挨拶**

国際ロータリー第 2560 地区のロータリーファミリーのみなさん、御来賓の皆様方、改めましておはようございます。地区外からお越しいただきました方々におかれましては、本日多くの地区で地区大会が開催されている中、この新潟にお越しいただいたことを心から感謝申し上げます。今日一日、長丁場となりますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、昨日は、第1地域ロータリーコーディネーター橋岡久太郎様から ロータリー財団についての御講演を、そして、ロータリー米山記念奨学会 前副理事長 水野功様から米山記念奨学事業についての御講演を頂きました。最新の情報と様々なエピソードが豊富なお話を頂き、洵にありがとうございました。御参加の皆様、ロータリー財団と米山記念奨学会への御理解・御協力を重ねてお願い申し上げます。そして夕刻には、山田邦子 RI 会長代理を歓迎して晩餐会を開催しましたが、参加者のみなさまのご様子を拝見するところ、大いに盛り上がり楽しんでいただけたように思います。

ところで、晩餐会の折にお食事のメニューを記したカードにはお目通し頂けましたでしょうか。御覧になった方は SDG's のマークと 新潟県のシルエットに気がつかれたと思います。昨日のお食事には少し趣向を凝らしまして、食材に大豆ミートを用い、また全体的に県産品の食材を用いました。これらは環境問題に関するささやかな試みであります。大豆ミートを用いましたのは、近い将来に懸念されている世界的な食糧問題を意識したことによります。これについては、今月のガバナー月信に記したことがございます。今月はロータリー財団月間であり、財団の重点分野には「環境」というテーマがありますので、まだお読みになっておられない方は、お目通しただけでしたら幸いです。また、食材に県産品を用いたことについては、地域産業支援ということがあるのは言うまでもないことですが、あわせて輸送コストとエネルギーの節減ということもあります。つまり、これも環境問題に関わるものであります。晩餐会の最中に山田 RI 会長代理にこのことをお話ししたところ、山田様はお医者様であります、「このような試みは健康にもいいですね。環境問題への対応は健康とも両立しますね」とコメントしてくださいました。地区大会実行委員の中からこのようなお食事を提供するアイディアが出てきた時、私は、「大変よい試みだと思うけれど、仲間のロータリアンには食肉産業に関わっている方もいるから、十分話し合ってくださいね」とお願いしました。聞くところによると、その方面の方はむしろ積極的で、「近々考えていかなければいけないことであると思っていたことで、勉強させてもらいたいからぜひやってくれ」と仰ったそうです。なお、以前に遡って恐縮ですが、本年 3 月の PETS の時の昼食には、パンの耳を切り落とさないサンドイッチをご用意させていただきました。これも PETS 実行委員会から出たアイディアによるものでありまして、身近なところから食品ロスに対応していこうという考えからでありました。

いささか長々としたお話になってしまいましたが、こういったことは本日のこの会合の意義にも関わるのではないかと私は思うのです。今この場に、オンラインも含め集っている多くの方々は、地域のリーダーであり、ロータリーの活動によって社会に良い影響をもたらそうとしている方々であります。大小様々なプロジェクトを通し、大きな影響力をもって周囲に働きかけることはどんどん積極的に進めなければいけません、同時に 自分自身を 身近なところから変えていくのも大切だと思うのです。そしてそれがロータリーだと思うのです。ポール・ハリスの言葉として、繰り返し引用されるものに次のようなものがあります。

If Rotary hopes to advance its aims, it must be evolutionary always and at times revolutionary.

「ロータリーが然るべき運命を切り開くには、私達は進化し、時には、革命的にならなくてはならない」ということでございますが、最近、より簡潔に「RI は時代に合わせて進化しようとしています」というスローガンとして示されることも多いようです。これは近年 RI で強調されているトピックであり、戦略的にロータリーを成長させること、即ち、grow Rotary が求められていることは、今まで公式訪問させていただいたすべてのクラブでお話ししてきました。

では、それぞれのロータリアンとクラブは、どのように進化していけばよいのでしょうか。ここで改めて、RI 会長の年度テ

ーマIMAGINE ROTARYと、DEI多様性、公平性、インクルージョンというスローガンを思い起こして頂きたいと思います。私たちロータリアン一人一人そして各クラブは、それぞれに多様な進化の道筋をIMAGINEすることができます。それぞれの道筋に沿って、単年度ではなく、中期・長期的な成長戦略を立てることが必要です。そして、それを会員の交流と結束によって推し進めていくことが必要です。

このように言うと、会員の交流と結束、そして様々な活動の実行という点で、やはりこの数年間のCovid19の影響により、奉仕活動どころか、会員やクラブ同士の交流も滞りざるを得なかったことが、大変残念に感じられます。

しかしこれは本当にマイナスの面しかないことだったのでしょうか。当地区54クラブのうち、私はこれまでに52クラブの公式訪問を終えました。その中で感じましたのは、いかにそれぞれのクラブが異なっているかということ、そして、Covid19の影響下においても着々とクラブ内改革や新たな活動に着手しているところが少なくない、ということであります。この数年間に、劇的に若手・中堅の会員中心への構造転換を為し遂げ、むしろ、若手が多すぎてロータリーのイロハがわからなくなっているのが、公式訪問ではロータリーの初歩を話してほしいとリクエストしてきたところもありました。また、地域の奉仕活動の在り方として、他団体との連携に活路を見出し、例えば近隣のライオンズクラブとの例会の相互訪問を行っているところもありました。近年とみに必要が唱えられているロータリーの広報についても、ITを駆使し、YouTubeにつぎつぎと動画をアップしているクラブもありましたが、逆に、自分たちで作った折込チラシを地域の新聞販売店に持ち込んで配布してもらい、地域住民へのアピールに効果を上げ、地域の方々から肉声で応援の声を得ているところもありました。その他、いろいろと数え上げればきりがありませんが、活動や交流が制限せざるを得なかったために、むしろクラブの多様化や個性化が進んだようにも見受けられるのです。このことは、徐々に規制が緩和され、次の社会状況に向かおうとしている過渡期である今において、重要な獲得物ではないでしょうか。

時は誰にでも等しく流れ、それを巻き戻すことは誰にもできません。であるならば、Covid19に苦しめられた3年間で、我々は決して無駄にするべきではありません。古の文明の諺に、「焔は黄金がどれか見分けさせてくれる」という言葉があります。この3年間の苦難は、自分のクラブの中の、何が得意なところで、何が何とかしなければいけない部分なのか、はつきり炙り出してくれてはいないでしょうか。そしてまた、新しい社会的状況、とりくむべき課題も浮上しているはずです。それをよく見つめて心に刻みましょ。そしてそれをこれからのクラブ戦略に注ぎこんでいきましょう。

こういったことを意識して頂きつつ、本日行われる大会決議や各種発表、報告において

地区の現在の足元を確認して頂きたいと思います。そして、これから拝聴するRI会長代理山田邦子様のお話を受け止め、藻谷浩介様による御講演「これからのニッポン、新潟の地域力を高める」をお聴き頂き、それぞれのクラブの戦略のヒントや指針を得て頂ければと思います。

今年度はまだ7カ月あります。この地区大会は、本年度の第2のスタートだとお考えください。

そして、今年度、来年度、さらにその先の将来に繋がっていく各クラブの将来を構想する場であるとお考え下さい。

当地区の今後における百花繚乱の弥栄をimagineしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

## **地区大会を終えて ご報告**

### **地区大会実行委員長 本間 彊**

木々の葉が色づく錦繡の秋、見事な快晴に恵まれ地区大会初日は幸先の良いスタートを切りました。高橋秀樹ガバナー一年度の地区大会は、令和4年11月12日、13日と2日間にわたり1日目はホテルイタリア軒、2日目はANAクラウンプラザホテル新潟にて開催されました。ガバナーの「再生・新生・共生」をテーマに、それを具現化する地区大会でもありました。

山田邦子RI会長代理（前橋RC）ご夫妻を迎え「イマジン・ロータリー」について、ロータリアンに、より良い明日を想像して行動することなど、その本質を分かりやすく講演して頂きました。第1日目の地区指導者育成セミナーでは、「ロータリー財団について」と題しロータリーコーディネーターの橋岡久太郎様（佐倉中央RC）より講演して頂き、さらに「米山記念奨学事業について」（公財）ロータリー米山記念奨学会前副理事長の水野功様（東京飛火野RC）からご講演を頂き指導者研修にふさわしい学びとなりました。この模様はYou Tubeにて配信致しておりますので個々のロータリアンや各クラブ例会でもご活用することが出来ます。それぞれ約30分ずつと使いやすく致しました。1日目のRI会長代理の



歓迎晩餐会はホテルイタリア軒の心づくしのフランス料理に工夫を凝らし、地産地消をベースに、魚介料理と大豆ミートを使ったパスタなど自然、環境など SDGs を意識した内容で提供して頂きました。2 日目の ANA ホテル新潟の昼食も同様に、大豆由来の豚肉風、蒟蒻とお米を混ぜ合わせたご飯のカツ丼を苦心の末完成して頂き評判も良かったように思いました。

2 日目の本会議では記念講演として「これからのニッポン、新潟の地域力を高める」と題し新潟県の各市町村にも詳しい里山資本主義でお馴染み、地域学の泰斗、藻谷浩介先生より熱弁を振るって頂きました。講演を聞かれた各クラブの方々からもう一度聞きたいのでパワポのデータがほしいとの声がありました。ご利用になりたい方は事務局にメールにてご依頼ください。h.takahashi@rid2560niigata.jp

もう一度お聞きになりたい方は、You Tube でアーカイブがご覧頂けます。

<http://youtube.be/jnD83xreEc0>

地区大会も終盤になり楽しい公演は、新潟市出身で元宝塚のスター、越乃リュウさんのステージを用意しました。満席の会場に響く歌声に感動された方も多かったようです。オンライン配信でご家族共々ご覧になられた方もおられたそうです。最後の親睦交流会は和やかに、コロナを一時忘れて楽しく過ごしました。フィナーレは「手に手つないで」を何年ぶりかで全員で合唱しました。ただし手はつながずに、マスク越しではありましたが生き生きとした皆さんの表情はやはりロータリアンそのものでした。なおソングリーダーは越乃リュウさん、特別出演でした。

「シンプルに、有意義に、そして楽しい」地区大会を目差し、ロータリーを学ぶこと、社会を見つめ文化と親しむこと、などがプログラムに反映されそれが会員同士の「共生」に繋がり明日の糧になればと思う次第です。一方、地区大会は一大事業のため予算は嵩みますが、始めにやりたいことを整理しつつ予算案を作成し、厳しい予算統制を行った結果、収支バランスは堅調に推移しております。各クラブ、関係各位のご協力のおかげとお礼を申し上げます。さらに次年度開催クラブの三条北ロータリークラブさんへとバトンをお渡し致します。

ご出席されました会員各位とご家族の皆様、オンラインにて参加して頂きましたすべての皆様、そして最後に共に汗を流した新潟ロータリークラブ会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

